

山本陽一先生ご推薦

(1) 和田春樹『「平和国家」の誕生』(2015年)岩波書店、2700円 ISBN-9784000247207

(2) 学問領域：憲法、日本史、世界史、政治学

(3) キーワード：平和国家、憲法、戦争、戦後

(4) 難易度：2

(5) 本書は、現在の私たちが暮らしている平和国家の原点を歴史的に明らかにする。現在、日本国憲法を根底から変えようとする試みがあるが、それを冷静にとらえ、適切な態度をとるためにぜひ読まれるべき一書。

(1) 宮本常一『宮本常一講演選集』第1巻～第8巻(2014年)農文協、各2800円

(2) 学問領域：民俗学、社会史

(3) キーワード：郷土、生活、歴史、地域

(4) 難易度：1

(5) 本書は、日本を実際に見て歩き、聞いて、そして励ました宮本常一の肉声を伝える。日常の細部に巨大な歴史的展望を示してみせる語り口がすばらしい。地域活性という語の内実を生活感情のレベルでとらえた選集。

岸野薫先生ご推薦

(1) 佐藤幸治『世界史の中の日本国憲法 立憲主義の史的展開を踏まえて』左右社、2015年、1,000円+税、ISBN: 9784865281279

(2) 学問領域：法学

(3) キーワード：立憲主義

(4) 難易度：3

(5) コメント：2015年6月に東京大学で行われたシンポジウムでの講演を基に加筆されたものであるため、1年生でも読みやすい。立憲主義とはいかなる意義をもち、いかなる歴史を辿ってきたか。今の政治とどのように向き合っていくかを考えるうえで、ひとつの手掛かりを与えてくれる。

(1) ゲイル・ジャロー(幸田敦子訳)『印刷職人は、なぜ訴えられたのか』あすなる書房、2011年、1,300円+税、ISBN: 9784751522202

(2) 学問領域：法学

(3) 表現の自由

(4) 難易度：1

(5) コメント：1730年代のNYで、政治批判を行うジャーナル誌の印刷職人が逮捕され

た。印刷職人は、なぜ訴えられたのか？そして判決は？平易な文章で描かれているため、1年生にお薦めしたい。独立前のアメリカにあった自由への強い意志を感じ取ってほしい。

藤井篤先生ご推薦

(1) 宇野重規『<私>時代のデモクラシー』岩波新書、978-4-00-431240-6、¥720

(2) 学問領域：政治学

(3) デモクラシー、個人主義、平等、再帰的近代

(4) 難易度：1

(5) 民主政治というと何か高邁な公共の問題という感じがします。確かに「みんなの問題」であることは確かなのですが、現代民主政治をあえて「私=個人」の立場から考え直してみるというのがこの本のユニークなところですよ。

その他の先生からのご推薦

(1) 川島武宜『科学としての法律学』弘文堂、1964年、ASIN B000JAG5OQ

(2) 学問領域：法律学

(3) キーワード：科学、法の要素、価値判断、方法論、社会科学

(4) 難易度：2

(5) コメント：「法律学」は、いかなる「学問」か、はたして自然科学と同様なレベルで「科学」の名に値するか等法律学を志す学生に読んでほしい不朽の名著である。なお、続編として、同『「科学としての法律学」とその発展』（岩波書店、1987年）がある。

(1) 末弘巖太郎『法学入門』日本評論社、1985年、ISBN-10: 4535006016

(2) 学問領域：法律学

(3) キーワード：法律、法律の解釈・適用、判例の研究、判例法、法学

(4) 難易度：1

(5) コメント：問答形式で法律学の学び方、法律の解釈・適用、法学とは何か等、法律学を学ぼうとする初学者にわかりやすく語りかける法学への古典的入門書である。